

(2)

〔サ〕	
最初の株式會社	65
最初の銀行	65
産業資本家	196
再禁止ブーム	197
財政破綻	181
〔シ〕	
支那國別輸入貿易額(表)	236
支那の共產主義運動	6
市電	
市電	113
六大都市市電の建設費(表)	113
六大都市市電の利益金(表)	114
植民地農村	124
植民地米移入統制	164
主要事業の生産制限率一覽(表)	228
使途別歳出(表)	241
失業常備軍	270
時局匡救豫算	252
自治農民協議會	133
自給農産物	138
自小作別農家戸數(表)	141
自作農制定	142
減津農組	160
自由金解放	178
〔セ〕	
世界陸軍の黒點地域	8
世界各國	
鉄鐵生産(表)	39

鋼生産(表)	41
電力生産(表)	42
石油生産(表)	43
石炭生産(表)	44
小麥生産(表)	45
棉花消費(表)	47
專賣	105
政府の農村救済策	148
生産及取引量の指數(表)	194
全國信用會社	178
全工業労働者	294
〔ソ〕	
ソ領北洋魚業製産高(表)	22
ソ聯邦五ヶ年計畫主要數字	50—51
外蒙古の現状	7
送炭制限	199
〔タ〕	
臺灣一期米收穫豫想	163
煙草製造高表(表)	108
田中義一	2
田中都吉	5
對ソ貿易振興會	35
第二次五ヶ年計畫に関するテーゼ	48
第二次五ヶ年計畫の概要	52
第三インターと戦争反對	55
〔チ〕	
朝鮮の農民運動	160
中國共產黨	170
地主戸數(表)	141

(3)

地方警察官會議	151
重要商品反騰狀況	173
重要産業會社事業成績(表)	198
重要事業別定額賃銀實數(表)	275
〔ツ〕	
通貨退蔵	177
〔テ〕	
鐵道	
鐵道國有論	96
日本鐵道會社	96
鐵道國有後の成績	99
〔ト〕	
東方會議	2
東支鐵道	
東支鐵道	9
東支鐵道の滿洲支配に有する重要性	11
東支鐵道資産内容	12
東支鐵道の延長哩數	14
東支鐵道の軍事的重大	15
土地飢饉	125
東北地方の凶作に就いて	126
〔ニ〕	
日本の國是は決まつて居る	4
日本漁業資本家	24
日魯漁業の業績	24
日韓併合當時	297
日銀通貨供給高(表)	259

〔ノ〕	
農村救済請願運動	123
農民生活狀況の一斑(表)	134
農村振興土木事業費	247
ノー、ストップ	221
〔ハ〕	
白系露人の暗躍	17
飯米施給問題	126
反滿反日軍	170
反トーキー、ゼネスト	280
萬國郵便聯盟	313
〔ヒ〕	
祕密主義と事實隱蔽主義	122
匪賊の反亂	170
七年度發行豫定公債	249
〔フ〕	
富國強兵	62
復興金融會社	178
不動産抵當貸金利(表)	147
〔ヘ〕	
米國金流出國別表	180
米國銀行休業數	179
〔ホ〕	
北滿の白系露人	17
封建小作料	126
北信不況對策會	133

昭和七年十二月十一日印
昭和七年十二月十四日發
發行編輯者兼
定價壹圓
送料六錢
東京市日本橋區本石町三丁目一ノ一
神原周平
日所刷印

昭和七年十二月十一日印
昭和七年十二月十四日發行

本日經濟年報
(第十輯)

編輯者 東京市日本橋區本石町三丁目二ノ一 神原周平
印刷者 東京市牛込區圓町七 堀修造

定價 壹圓
送料 六錢

發行所 東京市日本橋區本石町三丁目二ノ一
東洋經濟新報社
振替東京六五一八番
電話日本橋 八一番、八二番、八三番、一四八七番、二七八五番

社會式株刷印清日 所刷印

(2)

〔サ〕

最初の株式會社 65
最初の銀行 65
産業資本家 196
再禁止ブーム 197
財政破綻 181

〔シ〕

支那國別輸入貿易額(表) 236
支那の共產主義運動 6
市電

市電 113
六大都市市電の建設費(表) 113
六大都市市電の利益金(表) 114
植民地農村 124
植民地米移入統制 164
主要事業の生産制限率一覽(表) 228
使途別歳出(表) 241
失業常備軍 270
時局匡救豫算 252
自治農民協議會 133
自給農産物 138
自小作別農家戸數(表) 141
自作農制定 142
城津農組 160
自由金解放 178

〔セ〕

世界陸軍の黒點地域 8
世界各國 1
鉄鐵生産(表) 39

鋼生産(表)
電力生産(表)
石油生産(表)
石炭生産(表)
小麥生産(表)
棉花消費(表)
專賣 1
政府の農村救済策 1
生産及取引量の指數(表) 1
全國信用會社 1
全工業労働者 2

〔ソ〕

ソ領北洋魚業製産高(表)
ソ聯邦五ヶ年計畫主要數字 50—
外蒙古の現状
送炭制限 1

〔タ〕

臺灣一期米收穫豫想 1
煙草製造高表(表) 1
田中義一
田中都吉
對ソ貿易振興會
第二次五ヶ年計畫に關するテーゼ
第二次五ヶ年計畫の概要
第三インターと戦争反對

〔チ〕

朝鮮の農民運動 1
中國共產黨 1
地主戸數(表) 1

日本戰時經濟の全貌

六年度から七年度、七年度から八年度と軍事豫算は非常な膨脹を示した。時局は救の名に於て國防の充實、軍備の擴張が猛烈に進行してゐる。一方國際聯盟では日本代表は「國土をあげて焦土と化すも辭せず」との決心のもとに頑張つてゐる。戦争か、經濟封鎖か。本書に見よ、幕進する日本戰時經濟の全貌を!!

主要内容

- 第一章 戦争と國家總動員計畫
 - 第一節 國家總動員の意義
 - 第二節 國家主義と國家總動員
 - 第三節 資本主義と國家總動員
 - 第四節 我國軍需工業の動員法
- 第二章 我國軍需工業の狀態
 - 第一節 機械器具工業
 - 第二節 化學工業
 - 第三節 工場動員に依て生ずる
 - 第四節 社會的諸結果の解剖
- 第三章 我國官營事業の定義と種類
 - 第一節 官營事業の發生
 - 第二節 官營事業の内容
- 第四章 官營事業と國家財政
 - 第五節 主要官營事業の業態
 - 第六節 專賣、工廠、土地
 - 第七節 戰時財政の構成
- 第五章 戰時金融政策の動向
 - 第一節 戦争とインフレーション
 - 第二節 インフレーション準備の諸政策
- 第七節 獻金による軍事費の調達
- 【附録】
 - 經濟封鎖問題座談會
 - 我國資源需給の調査
 - 日本戰事年誌
 - 滿洲上海事變目誌

東日 京本 市橋 東洋經濟出版發行部 振六 替一 東八

金本位制の研究

著者

- 河崎 覺 次
- 高橋 佐 一
- 高橋 友 三
- 高橋 光 太
- 田中 金 八
- 日村 文 四
- 木村 文 四
- 服部 文 四
- 山崎 文 四
- 宮川 文 四
- 山崎 文 四
- 高橋 文 四
- 石垣 文 四
- カフツ 文 四
- マツケ 文 四
- ホトケ 文 四
- 其 他

インフレーションは愈々世界的に強襲しやうとしてゐる。その發端、昨秋からの情勢を先づ發生的に研究することは、今日緊急の必要だ。本書は「金本位制の研究」を主題とするものだが、討究の對象たるものは多く昨秋以來の金本位制崩壞の過程であつて、最も纏つた文獻と云へる。殊に推薦したきは die Internationale 一九三一年十一月號所載の Ch.W. 氏の論文「インフレーションのマルクス主義的解釋」で、現下の情勢を解明する上に頗る貴重なるものである。

(附録にロンドン・エコノミスト誌恐慌日誌、世界中央銀行金在高統計等あり)

東日 京本 市橋 東洋經濟出版發行部 振六 替一 東八

25-98

東洋經濟新報社編

菊版上製函入
上下二卷八百頁

定價五圓

(送廿四錢料)

日本の景氣變動

第一編 日本に於ける景氣變動の研究

第一章 緒論

第二章 日本景氣變動年史

第三章 物價及為替銀價の變動

第四章 重要商品の相場變動

第五章 通貨及金の相場變動

第六章 証券市場の變動

第七章 經濟活動量の變動

第八章 景氣變動の綜合的研究

第九章 景氣變動の統計的研究方法

第二編 統計的研究方法

第一章 統計資料の分類

第二章 統計資料の整理

第三章 統計資料の分析

第四章 統計資料の表示

第三編 景氣に關する重要統計表

明治初年よりの統計集

第四編 日本別冊の景氣變動

第一編 別冊の内容に對する圖表

第二編 別冊の圖表の大小は菊版の約三倍

景氣は愈よ大轉換しつゝある。だが、問題は今後日本經濟が如何なる段階に踏み入るかにある。而も最近三ヶ年の恐慌が正に歴史的な未曾有の大變動であつたことを思ふ時、今度の景氣轉換の意味と今後の新段階を研究する上に、本書の價値は絶大だ。蓋し、其等の研究は我國景氣變動の長期間の大きな視野の上に立つてのみ可能だからである。

即ち本書は過去三十六ヶ年の事實に基き、統計的方法を以て景氣變動の理論と實際を明かにしたものであつて、日本經濟の全構成、全變動史は周到なる説明と完備せる圖表、統計を以て徹底的に解明されてゐる。實に我國唯一の科學的景氣變動研究書だ。

此際我が社が十分の自信を以て本書を江湖に推薦する所以だ。

東日市橋 東洋經濟出版部發行 振六 替五 京八





